

1/5

### 育む心

### 子どもを守る

No.6766

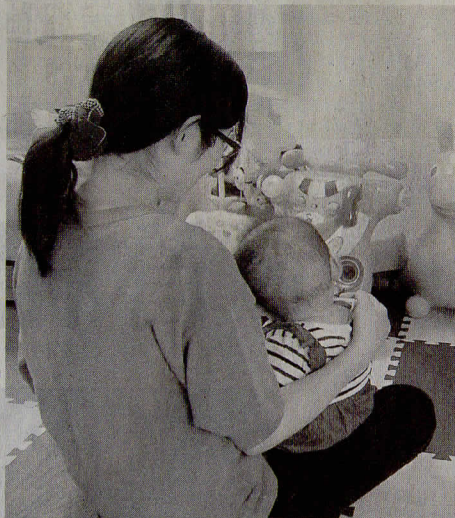
### 医療ルネサンス

# 孤立し余裕失う母親

「子どもをたたいてしまっただけです」  
2月に東京都内で行われたベビーマッサージの講習会。講師を務めたNPO法人「児童虐待防止全国ネットワーク」理事の高祖常子さんに、参加した女性(34)が泣きながら打ち明けた。

夕食の支度を始めると、8か月の長女がぐずり始めた。抱っこしようとする2歳の長男が泣き始め、抱っこをせがむ。長女の面倒を見ようとすると、長男は

「子どもを聞かなくなる。長男が女性の頬をたたき始めた。『痛いよ。同じことをされたらいいや』と、それでもやめない。夕食の支度も進まず、2人の泣き声は大きくなるばかり。女性は思わず長男の頬を軽くたたいた。手を当てる程度の方だったが、手を上げたのは初めて。長男はきょとんと女性を見上げ、おとなしくなった。翌日夜、「ママ、ペチンした」と長男が突然言った。記憶に刻



長女をあやす母親。「子どもとどても泣いて、でも泣いて、うにもならない、イライラしてしまう」と悩む(東京都内で)

まれていると実感し、涙が止まらなかった。

「仕方ないことなのに、なぜ困らせるの?」と思ってしまっただけなのに、高祖さんに相談して、共

感してもらえたこともあり、ホッとしたり、一人に話すことは大事ですね」と振り返る。高祖さんは、厚生労働省研究班の「愛の鞭ゼロ作戦」に携わっている。しつけに体罰が不要なことを広める取り組みだ。「家事で力を抜ける場所は抜いたり、気軽に話せる相手を作ったり、心の余裕を持つ方法を見つけてほしい」と話す。

核家族化や地域のつながりの希薄化など、母親の子育ては孤立化傾向にある。三菱UFJリサーチ&コンサルティングの「子育て支援策等に関する調査2014報告書概要」によると、

「子育ての悩みを相談できる人がいる」母親の割合は、02年の前回調査から30%減の43.8%、「子どもを預けられる人がいる」母親も約30%減の27.8%だった。福井大学子どものこころの発達研究センター教授で、医師の友田明美さんらは、体罰や暴言、DV(女性に対する家庭内暴力)の目撃などで、子どもの脳の一部に萎縮や肥大などの変化が起きていることをMRI(磁気共鳴画像)で明らかにしてきた。「たたく、どなるなどは不適切な関わりに含まれるが、親を責めるのではなく、エスカレーターを防ぐことが必要」と話す。

最近、健康でも、子育てによる気分の落ち込みや疲労感が大い親は脳に変化があることを画像で突き止めた。実用化に至っていないが、健診などで変化を事前に察知し、社会的な支援につなげようとする取り組み。「孤立化する母親を支えていくシステムを整えたい」(このシリーズは全5回)

# 筋肉に含むアミノ酸変化

魚は鮮度が命。とりわけ青魚は足が早いといわれる。魚種によって、傷みやささの違いはあるのだろうか?



一般的に、魚は「青魚」「赤身魚」「白身魚」に分かれるとされる。中央水産研究所横

「早い」とされるのは……

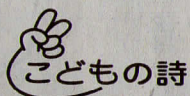
カツオやマグロ、カジキ、サバなど、外見から青魚と呼ばれ、中身から赤身魚とも呼ばれる魚は、ヒスチジンというアミノ酸を筋肉に含む。これらの魚が死ぬと、ヒスチジンはバクテリアにより分解され、アレルギー物質のヒスタミンへと変化する。

この作用は腐敗より先に起

こり、外見や臭いに変化はないものの、人によっては吐き気や下痢などの症状が出る。これは「ヒスタミン食中毒」と呼ばれるアレルギー反応で、「青魚は足が早い」とされる由来だ。

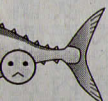
一方、タラやカレイなど白身魚も、生臭くなりやすい性質を持つ。死ぬと生臭さの原因となるトリメチルアミンなどの物質が生成され、刺し

## くらし 家庭

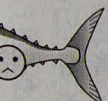


伝えたい  
ダイヤのように  
いつも笑顔で  
すい星のごとき  
きらきらして  
タークホースの  
よ約します  
(埼玉県宮代)

の仕組み



魚(赤身魚)ブリなど



過すると



リアに分解変化。などを発症

ヒスチジン